

## 令和7年度 第2回 経営協議会報

日 時 令和7年9月22日（月）13:30～16:40

場 所 本部棟4階 第一会議室（Teams によるオンライン併用）

令和7年度第1回経営協議会議事要旨（案）について確認があり、了承された。

### 審 議 事 項

#### （1）国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等について

福治理事から、資料に基づき提案説明があった。  
学外委員との間で以下のような質疑応答があった。

○適合の判断において、実質的な運用状況や成果の裏付けが乏しいと感じる。大学における意思決定の透明性、外部関与、質保証体制の強化というガバナンスを高めるためには、外部の目線で検証しやすい定量・定性の指標設定や可視化が必要ではないか。  
→ガバナンス・コードは、原理原則としての枠組みであるため、定性的な書きぶりが多くなっている。一方で、ビジョン計画では、BI ツールを活用し、定量的な KPI を整備し大学の達成状況を説明している状況である。学外公開は不十分であるため、定量指標の可視化を進める。引き続き、評価の観点における IR を整理して、データに基づく経営を目指していきたい。

○IR 体制の人員規模と強化方針は。教育 IR・研究 IR・経営 IR を少人数で担うのは難しく、任期のない人材を育成することも必要ではないか。

→教学マネジメント推進室を新設し、同室アドミッション部門および、大学評価 IR マネジメントセンターへの増員を行った。今後も体制強化を進める方向で考えている。  
IR 人材の基幹化も視野に体制整備を進めたい。

審議の結果、原案のとおり了承された。

### 報 告 事 項

#### （1）本学の自己点検・評価の結果に係る外部評価の実施方法について

福治理事から、資料に基づき報告があった。  
学外委員との間で以下のような質疑応答があった。

○定量化されていない基準に対して評価が行えるのか懸念がある。  
→達成度の自己評価4段階のうち「2以下」の項目に対して意見をもらいたいと考えている。今後は、外部委員から見ても理解しやすいような資料作成、指標の設定を心がける。

○評価を行うにあたり、KPI やマイルストーンの設定、達成率の可視化について、学外委員が客観的に進捗を把握できるようにしてほしい。

→学内ではビジョン計画に定量 KPI をセットし達成率を整理している。来年度の自己点検評価に向けて、そのデータの可視化や公表について整理を行ってほしい。

#### （2）令和6年度決算の承認について

島居理事から、資料に基づき報告があった。

#### （3）琉球大学における令和8年度概算要求について

島居理事から、資料に基づき報告があった。

#### （4）令和7年度科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」への採択について

喜納学長から、資料に基づき報告があった。

## 懇 談 事 項

### 研究・教育における産学連携の可能性について

表題の件について、委員から以下のような発言があった。

○寄附講座の考え方について伺いたい。

→寄附講座は、共同・受託研究費のカテゴリーにカウントしていないが、教育の観点でも重要な取り組みであるため、しっかり増やしていかなければならない。

○台風などの災害被害が増加していることから、災害対策への需要があると思われる。

→本学には島嶼防災研究センターがあり、災害対策プロジェクト立ち上げを検討している。本学が中心になり沖縄県とも連携を行うことで、県全体の防災対策強化が図れると考え、担当の研究者と進めている。

○資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点について、研究成果の社会実装化においてOISTと協力しているのか。

→情報交換等を行う程度に留まっている。

○海藻養殖が有効な二酸化炭素除去戦略であることを証明する研究について、企業との連携状況を確認したい。

→琉大と長崎大の研究グループで、沖縄もずくの養殖を対象として、ブルーカーボンへの貢献を研究しており、CRESTの大型予算を獲得して進めている。理研食品と組み、沖縄もずくの後には、わかめや昆布なども対象を広げる予定である。地域貢献につながる研究の一つである。